

CTCメルマガ vol.137
2026.5.22

大腸がん検診が 変わる！

Presented by Daisuke Tsurumaru
Radiology Dept. Kyushu Univ.



がん検診は定期的に、識者を集めて検討会が行われています。



Google カスタム検索

検索

テーマ別に探す

報道・広報

政策について

厚生労働省について

統計情報・白書

所管の法令等

申請・募集・情報公開

ホーム > 政策について > 審議会・研究会等 > 健康・生活衛生局が実施する検討会等 > がん検診のあり方に関する検討会

がん検診のあり方に関する検討会

回数	開催日	議題等	議事録／議事要旨	資料等	開催案内
第46回	2026年3月23日 (令和8年3月23日)	(1) 大腸がん検診について (2) 高濃度乳房について (3) 二重読影の規定について (4) その他	▶ 議事録 NEW 4月23日	▶ 資料	▶ 開催案内
第45回	2025年10月10日 (令和7年10月10日)	(1) 乳がん検診について (2) 肺がん検診について (3) その他	▶ 議事録	▶ 資料	▶ 開催案内

政策について

▶ 分野別の政策一覧

▶ 組織別の政策一覧

▶ 各種助成金・奨励金等の制度

▶ 審議会・研究会等

▶ [審議会・研究会等開催予定一覧](#)

▶ 国会会議録

▶ 予算および決算・税制の概要

https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-kenkou_128563.html

今回注目を集めた、大腸がん検診の議題についてまとめました！

今回の大腸がん検診で対象となったテーマは二つ。

1. 大腸がん検診の実施方法について

検診間隔1年が、2年と比較して大腸がん死亡率が減少するというデータがある。

➡検診間隔は、引き続き1年に1回としてはどうか ➡ YES

採便回数1回法と2回法で大腸がんの感度・特異度の差がない。

➡受診率向上が期待される1回法に変更してはどうか ➡ YES

とくに注目されたのは二つ目のコチラ！！

2. 大腸がん検診の精密検査について

第一選択は、全大腸内視鏡。困難な場合は、S状結腸内視鏡+注腸検査とあるが、注腸検査が激減している。日本消化器がん検診学会は大腸CTを推奨している。

➡他のがん検診と同様に精密検査の指定を削除してはどうか。

他のがん検診は、精密検査法の指定がないようです。

医療情勢は時代と共にかわるので、それを考慮しようという動きですね。

「精密検査の指定を削除」の議論について、ざっくり言うと…

慎重派

- ✓ 大腸がん検診は非専門の医療機関でも実施されるため、陽性に対する精密検査法は明示すべき。
- ✓ 要精検者のがん発見率が数%なので、不適切な精密検査はがんの取りこぼしにつながる
- ✓ 組織型検診の観点からも、精密検査方法の指定は本来必要である。

肯定派

- ✓ 学会マニュアルにおいて精密検査の内容が十分に整理されているので、現場でも対応可能である
- ✓ ただし、精密検査の重要性については何らかの形で担保すべきである。

指針からの記載削除には一定の合理性がある。
別文書等で推奨される精密検査方法を明示する。



精密検査の指定
は削除の方針に。

では、今後の大腸がん検診はどうなるの？

令和8年度の準備ができた段階で指針を改正

➡ 令和9年4月1日から適用

ここまでは決定。

(7) その他

① 大腸がん検診は、精密検査の受診率が他のがん検診に比べて低いことから、市町村は、その向上のため、精密検査の実施体制の整備を図るとともに、大腸がん検診において「要精検」とされた者については、必ず精密検査を受診するよう、全ての検診受診者に周知する。

なお、その際には、精密検査を受診しないことにより、大腸がんによる死亡の危険性が高まるなどの科学的知見に基づき、十分な説明を行う。

② 我が国の大腸がんの死亡率及び罹患率は、40歳代後半から増加を示し、特に50歳以降の増加が著しいことから、50歳以上の者については、積極的に受診指導を行う等の重点的な対応を行う。

③ 精密検査の第一選択は、全大腸内視鏡検査とする。全大腸内視鏡検査を行うことが困難な場合は、S状結腸内視鏡検査と注腸エックス線検査（二重造影法）の併用による精密検査を実施する。

ただし、その実施に当たっては、十分な精度管理の下で、注腸エックス線検査の専門家により実施する。

便潜血検査のみによる精密検査は、大腸がんの見落としの増加につながることから、行わない。

がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針

ここが修正される予定です。

新たな記載については、関連学会からのマニュアルに従うような意図が組み込まれると思われます。

大腸がん検診陽性の精密検査は、まずは内視鏡ですが、次の一手として大腸CTが選択可能になりそうです！